

失語症ドキュメンタリー映画

「言葉のきずな」 上映会

(上映時間：107分)

長野県で活動する、言葉の障害(失語症や構音障害)を負った人たちの劇団「ぐるっと一座」。その活動を取材したのが映画「言葉のきずな」です。

言葉のハンディを持ってから、感情がないわけじゃない—むしろずっと家族にすら伝えられなかった分、いっぱい心の中に豊かな感情を持っていること。

元気だったときにはそんなに思わなかっただろう、小さなことにも傷つき、小さなことにも喜びを感じるということ。

たとえ病気になろうが、人はどこかに自分の居場所が必要だということ。

人は生きている最後の最後まで、自分らしくありたいのだということ。

さまざまな人の生き様や思いが交錯する舞台—。

言葉の障害を乗り越える彼らの生き方を通じて、失語症や構音障害という枠を越え、「人らしく生きる」とはどんなことか、わたし自身が考えさせられるようになりました。同時にそのことを実現する難しさも感じています。それでも【誰もがその人の尊厳を持てる地域社会】が生まれるヒントが、この映画の中からいっぱい見つけられると信じます。そして、画面を飛び出さんばかりに熱演している劇団員たちから、たくさんの元気、受けとってください。



田村周：映画「言葉のきずな」監督

(言葉のきずな ホームページ <http://kotoba.ciao.jp>より)